

# クロマツ樹高を指標とした海岸林の ゾーニングと育成すべき広葉樹の選定

森林林業部

## 1 背景、目的

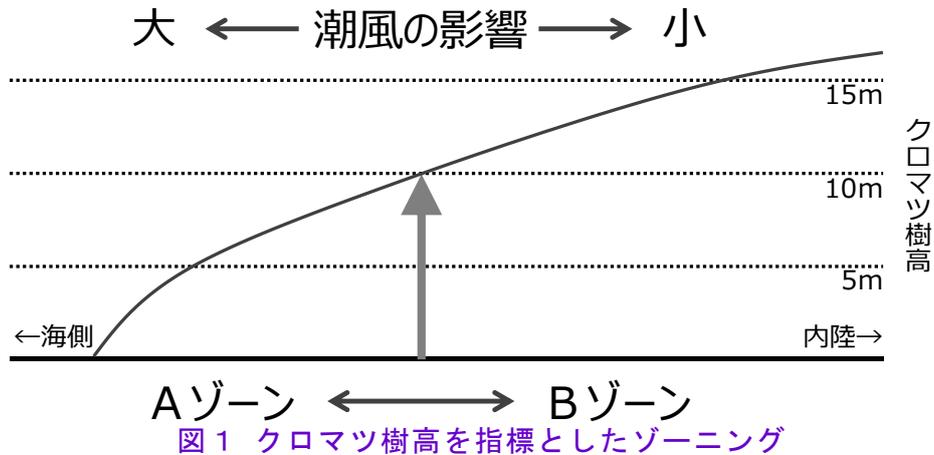
主にクロマツで構成されている本県の海岸林は、松くい虫被害の増加により防風、防砂などの機能が低下しています。このような被害地に自生する広葉樹の育成は、海岸林再生の一つの選択肢として期待されますが、樹種により潮風耐性が異なります。

そこで、海岸クロマツ林に自生している広葉樹の生育状況から育成対象とする広葉樹を区分しました。また、海岸林の最前線で耐性のある樹種を選定しました。

## 2 成果の内容、特徴

- 1) クロマツの樹高は、海岸線から内陸に向かって潮風の影響が小さくなるほど高くなり、ゾーニングの指標として利用できます（図1）。さらに、潮風に対する耐性や生育特性から、育成対象とすべき自生広葉樹をゾーニングに対応させて区分できます（表1）。
- 2) クロマツの樹高が10m未満の海岸前線に近いエリア（図1のAゾーン）に植栽可能な樹種として、生存率が高く初期成長に優れたウバメガシが適しています（表2）。また、防風垣は植栽木の生存率を高め、潮風等による成長阻害を抑制する効果があります（表2）。
- 3) クロマツの樹高が10m以上のエリア（図1のBゾーン）では、自生している広葉樹による海岸林再生が可能で、クスノキ科やモチノキ科の常緑高木種を主体とした樹種構成が適しています（表1、一部データ略）。

### 3 主要なデータ・画像など



注) 「クロマツ海岸林の管理の手引きとその考え方-本数調整と侵入広葉樹の活用-」  
(森林総合研究所 平成 23 年 3 月) におけるゾーニングの考え方に基づく

表 1 海岸林再生の育成対象とする樹種区分

Aゾーン (潮風の影響が大きい最前線)	Bゾーン (海側の防風物で潮風の影響小)
<b>低木類</b> アキグミ、トベラ、ナツグミ、ナワシログミ、ハマヒサカキ、マサキ	<b>中木類</b> カクレミノ、ナナミノキ、エゴノキ、カンコノキ、クロキ、ネズミモチ、ネムノキ、ハマビワ、ヒサカキ、ミミズバイ、ヤブツバキ、ヤマグル
<b>中木類</b> ウバメガシ	<b>高木類</b> クスノキ、クロガネモチ、シロダモ、タブノキ、モチノキ、ヤブニッケイ、アカメガシワ、エノキ、カラスザンショウ、スダジイ、センダン、ヌルデ、ハゼノキ、ヒメユズリハ、ホルトノキ、マテバシイ、モッコク、ヤマザクラ、ヤマハゼ、ヤマモモ、ユズリハ

注) 1. 育成対象とする広葉樹種は、現地調査や文献調査の結果を基に区分  
 2. 太字はクスノキ科とモチノキ科の樹種を示す  
 3. ウバメガシは県内での自然分布が確認されていない

表 2 防風垣が植栽後の生存率を高め成長阻害を抑制する効果

樹種	防風垣	植栽 本数	生存率 (%)		平均樹高 (cm)		
			1 成長期後	4 成長期後	植栽時	1 成長期後	4 成長期後
ウバメガシ	有	30	100.0	96.7	61	78	194
	無	30	96.7	96.7	62	68	109
マテバシイ	有	30	46.7	46.7	41	52	138
	無	30	33.3	13.3	39	42	114

注) 供試樹数：各区 30 本。防風垣：竹柵 (H=2.0m) 試験地：Aゾーン